



被災地で協力する獣医師の現状及びペット同行同伴避難について



令和6年9月1日（日）

10：00～15：00

主催：公益社団法人秋田県獣医師会

**講師：一般社団法人 日本防災教育訓練センター
一般社団法人 日本国際動物救命救急協会**

代表理事：サニー カミヤ

自己紹介

- 本名：サニー カミヤ 米国籍 62歳
- 元福岡市消防局消防吏員、レスキュー、救急隊員
- 元国際緊急援助隊隊員、ニューヨーク州救急隊員
- 教戒師（牧師）
- 国際消防情報協会調査員、34カ国の消防事情調査
- 一般社団法人 日本防災教育訓練センター 代表理事
- 防衛省、外務省（消防防災・危機管理教育専門家）
- 危機管理コンサルタント、防災アドバイザーなど
- ラオス国国防省陸軍工兵部隊救助救急指導官
- 近代消防、リスク対策.com連載中
- FaceBook: サニー カミヤ

阪神淡路大震災での獣医師会の活動

- ・ 獣医師会員の安否確認と被災状態（診療可能有無、動物救護所ボランティア活動の可否を確認、薬剤やフード等は薬品企業からの寄付で賄った。
- ・ 被災した動物病院は使える獣医療機器や資材、薬などを持ち寄って、近くの避難所に設けられた動物救護所で顧客などの診療を継続した。電源確保は発電機を用いた。
- ・ 被災を免れた動物病院は被災した動物病院の顧客動物の救急処置を行い、動物病院によっては、被災動物病院の獣医師や看護師などが24時間体制のシフトを組んで、無事だった動物病院で急性期に負傷した動物医療に従事した。
- ・ 発災後から72時間は負傷動物の処置を優先し、ワクチン接種やノミダニチェック、血液検査、健康診断等は落ち着くまで待つて頂くなど対応した。
- ・ ペットロスによる飼い主への心的サポートは保健師などへ引き継ぎ、飼い主の死亡によるオーナーロスになったペットへのメンタルケアなどは動物愛護団体などに引き継ぐなどの他機関連携が密に行われた。
- ・ 飼い主が亡くなったり、住む場所を失ってペットを手放す飼い主が増加したため、救護所や動物愛護センターに動物を預けて、迎えに来ないケースもあり、警察の会計課との連携も多かった。また、猫と鳥の預かり件数が圧倒的に多かった。
- ・ 獣医師によって、救急と救助のチームを分けて作り、救急は動物救護所での治療、救助チームは消防団等のボランティアを募って、小屋に閉じ込められた動物たちの救助と現場での救命救急処置や捕獲による保護活動などを行った。

獣医師の災害時における主な任務

災害時における獣医師の主な任務は、人間の医療救護活動と同様に重要で、被災動物の保護と健康維持、感染症の予防、食糧管理など多岐にわたります。具体的には以下のよう活動が含まれます。

1. 被災動物の救護と治療

- 緊急医療対応:** 被災動物の中には、怪我をしたり体調を崩したりすることがあります。獣医師は骨折、出血、外傷、低体温症、熱中症等の症例に対し、初期治療を行います。
- 感染症の管理:** 災害後の環境変化により、感染症のリスクが高まります。獣医師は感染症（パルボウイルス、レプトスピラ症、狂犬病など）の診断と治療を行い、感染拡大を防ぎます。

2. 被災動物の保護と管理

- 一時保護施設の設置と運営:** 一時的に動物を保護するための施設を設置し、保護された動物の健康状態を監視します。これには、ケージの設置やクリーンルームの維持、適切な給餌や水分供給などが含まれます。
- 避難所での動物対応:** 動物を同伴した避難者が避難所に来た場合、獣医師は動物の健康チェックを行い、避難者と動物が安全に生活できるようサポートします。動物と人間が共存するための衛生管理も重要な任務です。

3. 健康管理と予防接種

- 予防接種の実施:** 動物の感染症を防ぐために、予防接種を行います。特に、災害後の混乱期には、複数の動物が密集することで感染症のリスクが高まるため、予防接種の普及が重要です。
- 栄養管理:** 被災動物に対する適切な栄養管理も重要です。特に食糧供給が滞る場合、栄養バランスを考慮した給餌計画を作成し、動物たちの健康維持を支援します。

4. 公衆衛生管理

- 環境衛生の確保:** 被災地における衛生状態を維持するために、動物由来の感染症が人に伝播しないようにするための公衆衛生管理も行います。例えば、動物の糞尿の管理や消毒作業が含まれます。
- 情報提供と啓発活動:** 地元住民や避難者に対して、動物と共存するための衛生管理の方法や感染症予防のための情報提供を行います。

5. 行方不明動物の搜索と再会支援

- 行方不明ペットの搜索:** 災害によって飼い主とはぐれた動物の搜索を支援し、保護された動物が再び飼い主の元に戻るようには手配します。
- マイクロチップや首輪タグの確認:** 動物の身元確認を行い、所有者を特定するための手続きもサポートします。

獣医師の災害時における主な任務

6. 地域住民や他機関との連携

- 地域自治体との連携:** 地方自治体や動物保護団体、他の救援組織と連携し、被災動物の救護活動を円滑に行います。これには、物資の供給や医療設備の確保も含まれます。
- ボランティアの指導:** 災害時には獣医師の数が限られているため、獣医学生や動物看護師、動物愛護団体のボランティアの指導・サポートを行い、効果的なチームとして動けるようにします。

まとめ

獣医師の災害時における任務は、単なる動物医療の提供にとどまらず、公衆衛生の維持、動物と人間の共存支援、災害対応計画の策定など多岐にわたります。これにより、災害後の社会の安定化に寄与することが期待されます。

- 1、疾患媒介動物の管理
- 2、疾患伝搬の管理
- 3、群れ管理
- 4、動物の健康管理
- 5、搜索救助活動
- 6、動物管理
- 7、医療物資の維持
- 8、情報の査定
- 9、災害査定
- 10、防止対策



<https://jvma-vet.jp/disaster/pdf/guideline2.pdf>

動物救護所施設と医療設備

●動物救護所の必要な施設と設備 各テントに折りたたみ椅子5脚、折りたたみテーブル1脚

1、テントの種類と目的（男女別）※休憩や移動用マイクロバスもレンタルする。

①動物医療従事者、ボランティアの休憩所、仮眠場所（貴重品ロッカー）、飲食料
②洗面台、トイレ（女性用3：男性用1：共通：1）、着替え室、シャワー、のぼり旗（サイン）

③各種医薬品・支援物資（冷蔵庫）、ペット飲食料、医療資材、ペットシーツ、おむつ等

※麻薬類は施錠ロッカーに。洗面台はシャワーヘッド付き。動物医療従事者別のビブス＆活動衣服。

2、感染症キャリアの動物用テント（各種感染症別、伝染病に対応、種別ゾーニング）

3、施設前除染テント（ノミ、ダニ、寄生虫、汚染）、シャンプー＆ドライングスペース

4、診療動物種別のテント ※各テントにポータブルクーラー＆ヒーター、扇風機設置

①トリアージテント（負傷程度等選別、担架、救命処置セット）、トリアージタグ（重傷・中等症）

②犬舎（小型、大型ゾーニング）、診察台、検査医療品等キャビネット、ゴミ箱（医療廃棄、一般）

③猫舎（二重の逸走防止）、診察台、検査医療品等キャビネット、ゴミ箱（医療廃棄、一般）

④エキゾ舎（被食・捕食別）、診察台、検査医療品等キャビネット、ゴミ箱（医療廃棄、一般）

⑤レントゲン、ICU（3床以上）、避妊・去勢手術セット（多数）、パソコンデスク x 3等

⑥手術台（照明、救命救急キャビネット、モニター、検査機器 ※配置検討）

⑦診療データ保管スペース、パソコン、ホワイトボード、施設内インターコム、代表携帯電話

5、入院動物種別のテント（ホワイトボードとケージに傷病情報カード作成）

①犬舎（酸素＆モニター、小型犬ケージ2段・大型ケージ1段、サークル）

②猫舎（酸素＆モニター、ケージ2段）

③エキゾ舎（酸素＆モニター、温湿度計、被食・捕食ゾーニング）

6、ご遺体安置冷蔵コンテナ

7、火葬待ちご遺体管理冷蔵コンテナ（非常用電源、ガス燃料発電機など）

8、医療廃棄物テント（ビニールの色を変えて分別する）※一般ゴミは別。

9、焼却炉（※施設内での使用可否を要確認、火葬、医療廃棄物等）

10、本部は全体の受け入れ体制把握や入院先の選別、医療物資支援や寄附金の調達
所有権放棄動物・逸走動物対応（警察本部会計課）、さまざまな電話相談など

11、救急・救助・救出事案への出動、供血犬の手配、被災した獣医師への経営支援など

動物救護巡回診療車（2台運用：1台は搬送用<普通車等レンタカーで可>）

●動物救護巡回診療車の必要な施設と設備

1、車両積載物

- ①動物医療従事者・ボランティアの休憩用チェア、飲食料、非常電源・発電機（プロパン）
- ②洗面台、着替え、一時預かりケージ、配布用資料（飼養管理、継続処置）、折りたたみバケツ
- ③各種寄付医薬品・支援物資（冷蔵庫）、ペット飲食料、ペットシート、おむつ、保温物資等
- ※麻薬類は施錠ロッカーに。水は途中で汲めるよう10リットルポータブルタンク2本常備
- ④各種医療資材、医療廃棄物処理用ビニール、ディスポ手袋、アルコール、エプロン、マスク等
- ⑤各種ワクチン ※要重要管理、個数は種類毎に記録、温度管理等、簡易デスク、代表携帯電話
- ⑥ダウンライト、ポータブルライト、ヘッドライト（作業用、診療用）、ペンライト、換気ファン
- ⑦ドミナントリード（太3・細5）、消毒剤・掃除用具、掃除機、筆記具・バインダー、記録用紙

2、感染症キャリアの動物用ケージ（各種感染症別、伝染病に色分け&タグ対応）

3、施設前除染テント（ノミ、ダニ、寄生虫、汚染）、シャンプー&ドライングスペース

4、診療設備

- ①トリアージテント（負傷程度等による選別と救命処置セット）、トリアージタグ（重傷・中等症）
- ②診察台、検査医療品キャビネット、医療資材廃棄箱、一般ゴミ箱
- ③レントゲン、手術台（照明、救命救急キャビネット、モニター、検査機器 ※配置検討）
- ④診療データ保管スペース、パソコン、ホワイトボード、ビデオ、カメラ、モバイルWIFI

5、救護所への搬送動物種別ケージ（ホワイトボードとケージに傷病情報カード作成）

- ①犬ケージ（酸素&モニター、小型犬ケージ・大型犬ケージ1段 ※要固定）
- ②猫ケージ（酸素&モニター、ケージ2段）
- ③各種エキゾケージ（段ボールケージ、酸素&モニター、温湿度計、被食・捕食ゾーニング）

6、ご遺体安置冷蔵段ボール（叩いて冷やすアイスパックなど）

7、ペットの悩み対応やありとあらゆる相談（団体等への引き継ぎやパンフレットの配布など）

「すべての犬に里親を！」 阪神・淡路大震災1556頭の物語



本書は、13年前の1月17日突如として襲った直下型大地震、阪神・淡路大震災において自らが被災者となる中で、寝食を忘れ被災動物の救護活動に当たられ、それを我が国初の組織的活動として成し遂げられた中心的活動家としてのお二人。すなわち、当時の神戸市獣医師会会長の旗谷昌彦氏と日本動物福祉協会阪神支部の松田早苗氏の実に臨場感あふれる活動の記録（物語）である。また、同時に救護活動の教訓に富むものでもある。緊急災害時の動物救護活動に主体的役割を果たす獣医師会、動物愛護・福祉関係団体や動物愛護管理事務を担当する行政部局の関係者の方にとっての心構えのテキストとしておすすめしたい。

大震災発生後、実に4日目にして県、市、獣医師会等の関係団体による兵庫県南部地震動物救援本部を立ち上げ、被災動物の保護預かり、健康診断等の救護、里親への譲渡等の一連の救護活動の組織的対応を獣医師会会員、動物愛護団体会員自らが、率先してリーダーシップを発揮され、行政部局や民間団体・企業、全国の獣医師会との連携と多くのボランティアの支援のもとで、成し遂げた。

<https://www.amazon.co.jp/dp/4062147009>

能登半島大震災での獣医師会の活動

令和6年能登半島地震動物対策本部・石川県獣医師会
飼い主のいるイヌ・ネコ・ウサギ・小鳥の
一時預かりを開始しました。

能登半島地震により被害を受けた皆様に、
心からお見舞い申し上げます。

公益社団法人石川県獣医師会では、令和6年1月8日「能登半島地震
動物対策本部」を立ち上げ、活動を開始いたしました。

この度、被害にあわれた飼い主の皆様が生活再建に専念できるよう、
ご家庭で飼育されているイヌ・ネコ・ウサギ・小鳥などの一時預かり
を支援することにいたしました。

この支援を希望される方は、下記の要項を確認したうえで、
こちらまでお問い合わせください。

能登半島地震対策本部

電話番号：076-213-5788

受付時間：10時～16時

お預かり期間は最長1か月とし、無料でお預かりします。
受け入れ動物病院に預ける際は、ご本人または代理人（親族）
がお連れいただくのを原則とし、書類に署名をいただきます。

県獣医師会の「家畜部」の会員からは「（能登半島
北端の）珠洲市まで行って子牛を助けてきた」など
という声も聞きました。牛・豚・鶏が出産のピークを
迎え、能登地区の畜産業者を支援するために駆け
回っていました。家畜のための飲料水の確保が今も
大きな課題です。

県内の動物病院で被災ペットの「一時預かり」を決め、
1月15日にスタートしました。県獣医師会に加盟する
会員は216人おり、一時預かりへの支援を呼び掛け
ると約60カ所の病院が「受け入れる」と言ってくれた。

自宅の倒壊などで住む場所を失った猫たちが、妊娠・
出産して確実に増えてきています。また、飢えからか、
生まれたばかりの子猫や弱った猫を食べているという
悲惨なケースも聞きました。このような状況を踏まえ、
県獣医師会の動物対策本部は早急に被災猫の保護と
避妊・去勢手術を含めた対策を検討・実施しました。
望まない繁殖を防ぐための活動が急務であり、地域の
ボランティアの方と連携して、すでに無料で被災地の
猫（飼い猫、地域猫）の避妊・去勢手術を始めている。

令和6年能登半島地震に係る
日本獣医師会の対応

<https://jvma-vet.jp/mag/07703/a5.pdf>



令和6年能登半島地震におけるペットに関する対応

基本方針：被災地の状況を踏まえて、被災者の救護・支援の観点から、ペットに関する対応を実施

1. 避難所等での対策

- ▶ 職員等派遣、現地状況把握
- ▶ 避難所等でのペット飼育のための飼育用ケージ、フード等の資材供給
- ▶ 飼育スペースの確保

2. 被災者のペットの一時預かり等

- ▶ 健康上、災害復旧作業の理由等で飼育困難となる飼い主からの依頼対応
- ▶ 県内・県外における一時預かり先の確保
- ▶ 預かり先の動物病院等への移送
- ▶ 迷い犬猫等の保護と情報発信

3. 仮設住宅での対策

- ▶ ペットとともに住める仮設住宅の確保と
そのために必要なケージ等の資材供給
- ▶ 仮設住宅における適切な飼養管理の
促進

ペットに関する対応の進捗状況（環境省による調整・対応状況等）

体制整備：

- ▶ 職員等の現地派遣、石川県（金沢市、能登半島に各2名程度）に恒常的に職員等を派遣、石川県庁と能登中部保健福祉センター等に自治体職員を派遣（1/6～4/22）
- ▶ 石川県、日本獣医師会、ペット災害支援協議会等と連携した支援体制の確保（1/5）。被災地保健所も参加のウェブ会議開催（1/8～4/18）
- ▶ 石川県獣医師会、石川県が能登半島地震 動物対策本部を設置（1/8）

1. 避難所等での対策

- ・ 環境省職員等を被災地に派遣し、現場確認、助言等を実施
（1/6～9：輪島市、志賀町、穴水町、七尾市、10～11：富山県、新潟県、12～14：珠洲市、能登町、18～20：珠洲市、輪島市、志賀町、七尾市、1/22～4/22：金沢市、能登半島に各2名程度常駐）
- ・ 石川県による被災者からのペットに関する相談窓口の設置（1/7）
- ・ 動物対策本部が被災動物、被災飼い主様への支援のための募金口座開設（1/11）、環境省SNS・HPで広報（1/12）
- ・ ケージ、フード等の支援について、石川県、日本獣医師会、ペット災害支援協議会等と連携し、市町の物流拠点・避難所等にプッシュ型・プル型で石川県や環境省が運搬して支援（1/18～）
- ・ 関係団体と連携し、トレーラーハウスの設置による飼育スペースの確保
石川県：1.5次避難所（1/21～4/30）
環境省：志賀町避難所（1/29～5/30）、珠洲市避難所（2/12）
- ・ 石川県獣医師会が巡回診療（1/28～6/2）

2. 被災ペットの一時預かり等

- ・ 石川県獣医師会が所有者の依頼による一時預かりを実施（1/15～3/31）
- ・ 動物対策本部が一時預かり延長用のシェルターを設置（3/15）
- ・ 石川県実施の所有者とはぐれた犬猫等の保護収容の支援として、県保健所の収容力確保のための広域譲渡を実施（2/6～3/7）
- ・ 環境省が民間企業に依頼し、犬猫保護情報サイトを開設（2/9）

3. 仮設住宅での対策

- ・ 「仮設住宅等へのペット同居」について石川県に依頼（1/11）石川県から各市町に依頼（1/17）
- ・ 被災各市町がペット受入の方針であることを確認（2/9）
- ・ 各市町による住民説明会で石川県がペットの取扱いについて説明（2/24～）



仮設住宅についての住民説明会

災害時におけるペットの 災害時におけるペットの救護対策ガイドライン

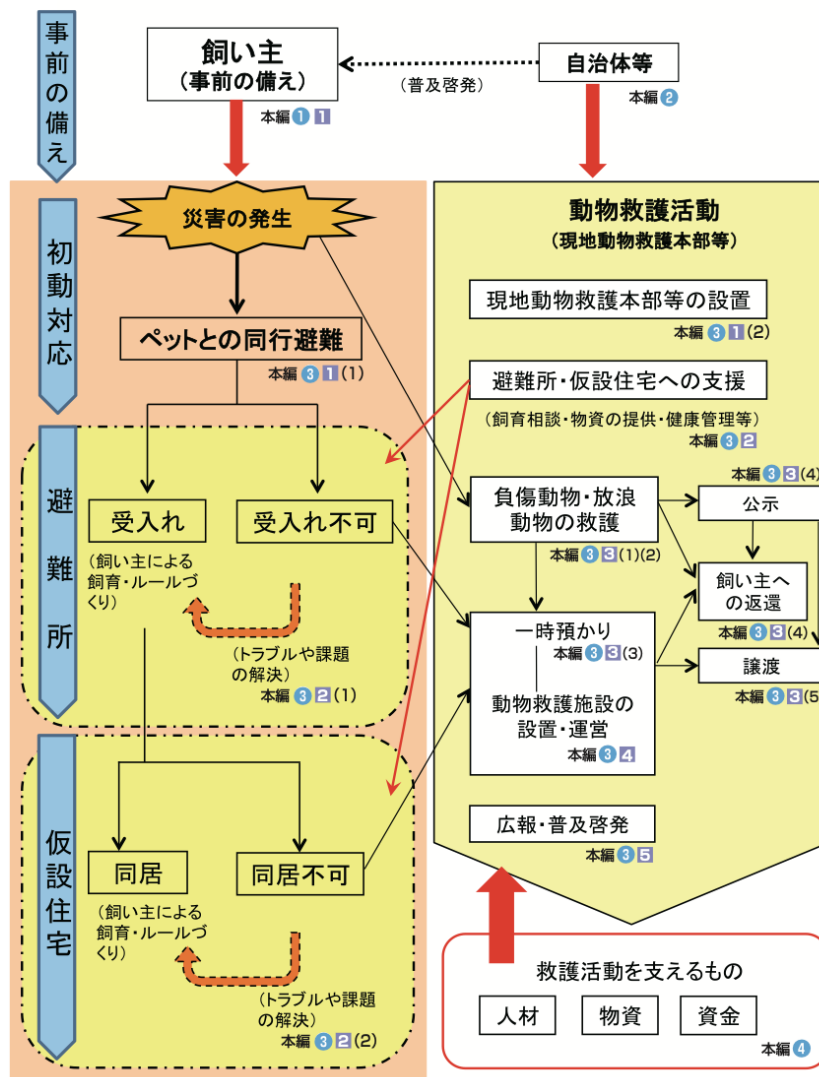
災害時におけるペットの 救護対策ガイドライン



地方獣医師会の役割.....16
現地動物救護本部等の役割19
緊急災害時動物救援本部の役割 ...20



ペットとの同行避難と災害時動物救護活動フロー

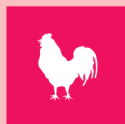


https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/pamph/h2506/full.pdf

災害時動物救護の地域活動マニュアル 策定のガイドライン

日本獣医師会小動物臨床部会動物愛護福祉委員会
「災害時動物救護活動地域マニュアル策定のための
ガイドライン」検討小委員会報告

災害時動物救護の地域活動マニュアル 策定のガイドライン



平成19年 8月

社団法人 日本獣医師会



獣医師会が行うべき活動内容が全て記載されている

1 はじめに	… 1
2 動物救護活動の法令上の位置づけ	… 2
(1) 災害対策基本法	… 2
(2) 動物の愛護及び管理に関する法律	… 3
(3) 武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律	… 4
(4) その他（災害・防災に関係する法令）	… 7
3 地域活動マニュアル策定（改定）に当たっての留意事項	… 9
(1) 被災動物等に関する都道府県の現状	… 9
(2) 自治体が発定している地域防災計画の確認と地域活動マニュアルの整合性	… 9
(3) 地域活動マニュアル策定（改定）委員会	… 9
(4) 地域活動マニュアル策定（改定）委員会の位置づけ	… 10
(5) 地域活動マニュアル策定（改定）委員会の構成	… 10
(6) 地域活動マニュアル策定（改定）に関して考慮すべき事項	… 10
(7) 地域活動マニュアル策定（改定）に際しての参考	… 11
4 地域活動マニュアルに収載すべき事項	… 19
(1) 平常時の活動	… 19
(2) 発災～24時間の活動（初動体制）	… 24
(3) 24時間～48時間の活動（前期救護体制）	… 26
(4) 48時間～72時間の活動（中期救護体制）	… 29
(5) 72時間以降の活動（後期救護体制）	… 31
(6) 復興時期の活動	… 32
(7) 終息期の活動	… 35
5 緊急災害時動物救護活動体系図	… 36
(1) 動物救護活動の組織図	… 36
(2) 災害時動物救護活動フロー	… 37

<https://jvma-vet.jp/disaster/pdf/guideline.pdf>

ファミリー・タイムライン

～もしもの時の避難行動計画～

いざというときにあわてずにペットと一緒に行動するため、
自分とペット「ファミリー」の避難行動計画「タイムライン」を作りましょう。

STEP 1 地域の災害特性を確認

あなたの住んでいる地域は？

☐ 浸水想定区域 ☐ 土砂災害警戒区域

住んでいる場所の浸水想定深は？

【河川名（ ） 浸水深（ ）】

STEP 2 避難先・避難経路を決定

どこに避難する？

どうやって？

避難の途中で注意する場所は？

候補 1 _____ 【歩いて 約 分】 ⇒ [_____]

候補 2 _____ 【歩いて 約 分】 ⇒ [_____]

● 家族の連絡先 / 緊急連絡先

TEL	-	-	(	)
TEL	-	-	(	)
TEL	-	-	(	)
TEL	-	-	(	)

〔警戒レベル〕 取るべき行動	〔レベル1〕 災害への心構えを高める	〔レベル2〕 自主避難など注意の呼びかけ	〔レベル3〕 避難に時間がかかる人は危険な場所から避難！	〔レベル4〕 危険な場所から全員避難！	〔レベル5〕 災害の 発生又は切迫！
避難情報 等		自主避難など	ペット・障害者・妊産婦・高齢者等避難	避難指示	
気象警報、 災害情報 等	早期注意情報 (警報級の可能性)	大雨注意報 / 洪水注意報	大雨警報 / 洪水警報	土砂災害警戒情報	
		高潮注意報		高潮警報 / 高潮特別警報	
		氾濫注意情報	氾濫警戒情報	氾濫危険情報	

行動プラン	わたしとペットと家族	地域	避難準備&確認事項 (優先順に)	避難先&安全な避難ルート (選択肢各3つ以上)	避難グッズ搬送手段&避難方法 (選択肢各3つ以上)	避難先での生活方法と間取り図 (同伴・車中・テント等選択肢各3つ以上)	命の危険、 直ちに安全を確保！
			☐ 天気予報を確認 ☐ 避難の必要有無の判断 ☐ 在宅避難 or 水平・垂直避難 ☐ 家の点検・補強 ☐ 非常持ち出し品や備蓄品の確認 (ペット用品&ペット情報も) ☐ ペットの一時預け先への確認 (シッター、ペットホテル等) ☐ 避難手段、タイミング等の確認 ☐ 備蓄品等が水浸しないように 安全な場所に置く(湿気・カビ) ☐ 必要に応じて移動手段を検討 (ペットタクシー、車送迎等) ☐ ペットをケージに入れて 避難の準備 ☐ 避難場所開設状況の確認 (区HPや防災情報Eメール) ☐ 避難先受け入れ状況の確認 ☐ 避難に時間を要する方は、 ただちに危険な場所から避難	・風水害時に安全確保する場所は？ ☐ 屋内待機(在宅) ☐ 浸水範囲外の安全な場所 ☐ 避難先等(両親・家族・事業者) ・避難先アドレス&連絡手段 避難先1： 避難先2： 避難先3：			

気象状況(例)

大雨の数日～約1日間

大雨の半日～数時間前

大雨の数時間～2時間前程度

---> --->

数千年に一度の大雨

ペット同行・同伴避難所、仮設住宅入所名簿 兼 登録名簿

ペットの写真		飼い主等の写真 ※家族・預かり主・保護者・管理者等	避難所名			
			避難所における登録番号			
入所日及び出発地		月 日 自宅・その他（ ）				
退所日及び行き先		月 日 自宅・その他（ ）				
飼い主の情報 又は、発見者、保護者、 預かり者や団体、 引取者の情報		氏名				
		住所				
		連絡先				
		避難している 教室や場所等				
ペットの 情報	名前					
	飼育動物の種類	・動物種: 犬・猫・その他 種類: ・個体数: 犬() 猫() その他()				
	飼育動物の特徴	・性別: オス・メス ・体重: kg ・種類 () ・避妊・去勢の有無: 実施済み・未実施 ・毛色 () ・その他: ()				
	予防接種の有無	狂犬病ワクチン接種: 有・無/最終接種年月日: 感染症予防ワクチン接種: 有・無/最終接種年月日: 具体的なワクチン種類:() ノミ・ダニ・寄生虫等駆除状況: 実施済み・未実施 駆除の措置内容及び時期 ()				
	個体識別の有無 マイクロチップ等	個体識別: 有・無 個体識別方法 () マイクロチップ番号:				

※多頭飼いの場合はペット毎に作成すること			
生年月日	年 月 日 (歳) ※不明な場合は推定年齢		
性別	オス・メス	不妊去勢手術	済・未
特徴	毛の色や模様、尻尾の長さ、形、耳の形、目の色、鼻の色などの体の特徴や人に対する特性（怖がる、吠える、かみつく）などできるだけ多く。		
フードの種類	メーカー:	タイプ:	1回に与える量: g
ペット保険	加入会社名: 保険証番号:		
治療中疾病	持病: 有・無/感染症: 有・無 有りの場合は種類() 疾病名 ()		
アレルギー等			
服用薬	薬の名前 () 薬の種類: 錠剤、散剤 (粉薬)、顆粒剤、液剤 点眼、坐薬、塗り薬、吸入剤、注射剤 服用回数 () 投薬要領:		
犬の登録情報	鑑札番号: 第 号 注射済票番号: 年 度 第 号		
獣医情報01	動物病院名: 電話番号: カルテ番号: 獣医師名:		
獣医情報02	動物病院名: 電話番号: カルテ番号: 獣医師名:		

ペット同伴避難関係ダウンロード

- ↓被災状況予測・避難計画票作成（地震・風水害）

<https://petsaver.jp/PDF/petdouhansenario.pdf>



- ↓ペット同行・同伴避難所、仮設住宅入所名簿 兼 登録名簿

https://petsaver.jp/PDF/check_in_form.docx



- ↓ファミリータイムライン

<https://petsaver.jp/PDF/familytimeline-sheet.pdf>



ペット同伴避難等については下記の資料を参照



ペット防災・ペット同行同伴避難について ～「飼い主とペットの健康と安全の保持」を標準化しよう～



令和5年9月1日（金）
10:00～12:00 ペット防災ワークショップ
13:00～15:00 ペット同伴避難関連訓練
主催：秋田情報ビジネス専門学校

一般社団法人 日本防災教育訓練センター
一般社団法人 日本国際動物救命救急協会
代表理事：サニー カミヤ



<https://petsaver.jp/PDF/AKITA2023.pdf>



ペットの災害対策について ～「飼い主とペットの健康と安全の保持」を標準化しよう～



令和6年5月26日（日）
13:00～16:00 ペット災害対策ワークショップ
主催：秋田情報ビジネス専門学校

一般社団法人 日本防災教育訓練センター
一般社団法人 日本国際動物救命救急協会
代表理事：サニー カミヤ



<https://petsaver.jp/PDF/AKITA2024.pdf>

被災状況予測・避難計画票作成（地震・風水害）の作成方法

被災状況予測・避難計画票（風水害）

No.	1	気象状況:降雨量 110 ミリ/時間、大雨特別警報(土砂災害)発令直前	
被災日時	7 月 7 日(日)午前 10 時 ※夏、休日昼を想定した問題		
動物種	犬・猫・その他	被災場所	自宅

○ハザードマップ上の位置づけについては、それぞれの居住地の状況にあてはめてください。
○家族構成はご自身の状況にあてはめてください。
○飼養動物のプロフィールは、ご自身の状況にあてはめてください。
○不明な情報もあるかと思いますが、あらゆる可能性に配慮して検討してください。

【気象警報等の発表状況】

※減災の行動について考えさせるために、問題文において、過去の発表状況を元に時系列に示すこととしました。

7 月 6 日 (土)	午後 6 時	大雨注意報、強風注意報
7 月 7 日 (日)	午前 8 時	大雨警報 (土砂災害)
	午前 9 時	大雨警報 (浸水害)、洪水警報
	午前 11 時	土砂災害警戒情報

【避難計画・検討事項】

1 どのように避難行動をとるべきですか？

① 避難のタイミングは？

② 避難方法は？

③ 避難先の選択肢は？

④ 避難生活に必要なものは？

⑤ 避難行動（避難生活も含む）で特に気をつけなければならない点は？
※季節、時間帯、ペットのプロフィール（持病、年齢、吠え癖など）、今後想定される被害などから、避難行動全体で注意すべきことを書いてもらいます。

2 平時からの備えをどうすればよいと思いますか？具体的に。
（例：ハザードマップの確認、避難先の選定、持ち出しグッズの準備等）

3 所感

1、まずは15分で自分とペットの被災状況を予測して書き出す。

①複数の選択肢がある場合は優先順に番号を付ける。

②正しい間違いでは無く、行動判断の選択肢を増やす。

2、20分で各グループでそれぞれ書き出したことを話し合い、納得性と必要性を考えて、まとめてみる。

3、10分程度で、いくつかのグループにまとめた内容を発表していただきます。

※質問・意見・要望等が生じたら、まずは現状や根拠法令などをスマホで調べてみて解答が見つからない場合は「誰に」「何を」「どのように」等、書きだした上でご発表下さい。

4、質疑応答&フリー議論15分間。

【策定の経緯・目的】

- 東日本大震災では、事前にペット対策を講じていた自治体があったものの、災害規模が大きく地域が広範にわたったこと、原子力災害が発生したこと等により、自治体も避難者も対応に苦慮。
- 今後、自治体等が災害の種類や地域の状況に応じた独自の災害対策マニュアルなどを作成する際に、ペット対策を検討する際の参考となるよう標記ガイドラインを作成。

専門検討会での検討

- ◆ 自治体、日本獣医師会、日本愛玩動物協会等の7名の専門家による検討。
- ◆ 自治体へのアンケート調査の実施、自治体や民間団体の既存マニュアルも参照
- ◆ 過去の災害での動物救護の事例を数多く取り入れて、具体的で実効性ある内容を目指す。

【ガイドラインの概要】

□ 基本的考え方

- 飼い主の責任によるペットとの「同行避難」を原則とする。
- その上で、個人での対応には限界がある場合に備え、被災者が安心・安全に避難するために、自治体等による支援体制や、放浪動物、負傷動物等の救護体制の整備が重要。

□ 平常時及び災害時における飼い主と関係機関等の役割

- 飼い主の役割（動物愛護だけでなく、放浪動物による人への危害防止の観点等からの同行避難の実施と、避難所でペットを飼育する場合の他者への特別な配慮・平常時からの備え等）
- 自治体、地方獣医師会、民間団体・企業、現地動物救護本部※、国等の役割。

※自治体、地方獣医師会等が任意に設立する動物救護活動を実施するための協働組織

□ 災害時に備えた平常時の対策、体制の整備

- 平常時から飼い主が取っておくべき対策等の普及啓発
- 自治体における避難所や仮設住宅でのペットの受け入れ配慮
検討項目：地域防災計画へのペット受け入れに関する記載／施設の設置者・管理者との調整／必要な支援物資の備蓄方法等
- 動物救護体制の整備、救護施設の設置に係る検討

□ 災害発生時の動物救護対策

- 災害が発生した際の初動対応
- 避難所や仮設住宅でのペットの飼育
避難所でのペットの飼育方法の決定／ペットの適正飼育の指導／動物相談窓口の設置・運営／必要な物資の支援／ボランティアの受け入れ・配置・役割分担／獣医師によるペットの健康チェック
- 保護が必要な動物への対応
（負傷動物・放浪動物の保護等、飼い主からの一時預かり、飼い主への返還、譲渡）
- 動物救護施設の設置と運営管理（施設の設置、体制整備、動物の飼育管理・健康管理等）
- 情報の提供（避難住民に対する啓発活動、保護動物や動物救護活動に係る情報提供）
- 動物救護活動の終息時期の考え方

□ 動物救護対策を支えるもの

- 人材の確保、ボランティア（個人・獣医師・民間団体）との連携
- 必要な物資の備蓄・提供、救援物資の受付・配布
- 資金の確保、義捐金の募集・配布

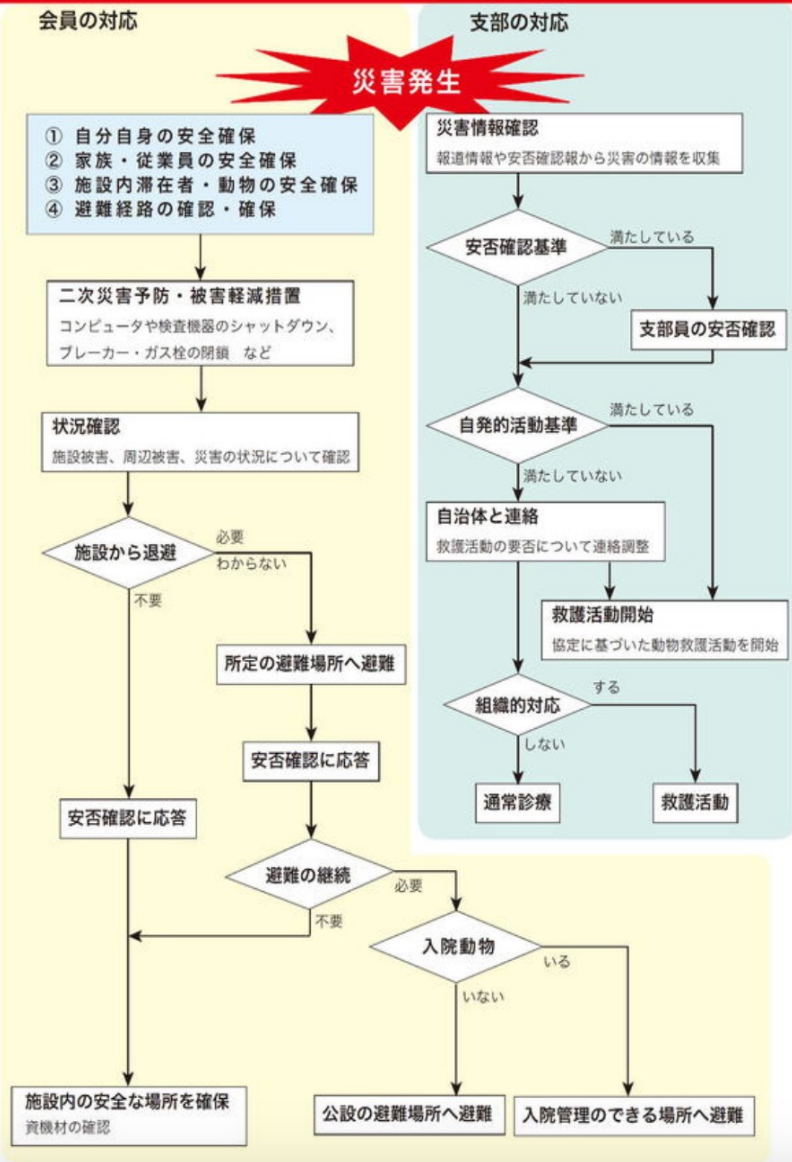
●どのガイドラインにも共通するのは獣医師の横の連携と日頃からの飼い主への災害時における直接的でわかりやすい動物愛護教育であり、獣医師から飼い主への定期的な発信が求められる。

特に国内で大規模災害が発生した時には防災意識が高まるため、具体的な地域の災害特性の周知や院内での勉強会開催などで飼い主同士の相互扶助のきっかけを作ったり、被災動物救護ボランティア等の育成に寄与することなどが考えられる。

また、何よりも院内の耐震対策を高め、発災後も継続して獣医療を提供できる具体的な準備が必要である。

災害時における動物愛護管理対応マニュアル

フェーズ0 発災直後



※要編集（非公式）

災害時における動物愛護管理対応マニュアル
（秋田県：令和6年度）

<https://petsaver.jp/docx/saigaimanual.docx>



所轄自治体や県内動物関連施設や関係者との連携が必要なため、日頃から、シナリオ状況予測型被災動物対応訓練等を行って、知識とスキルを磨くことが求められる。

いかに想定内を増やして想定外を減らすかで被災軽減、円滑な同伴避難などを行うことができる。

動物も被災ストレスになり、恐怖体験が記憶に刻まれるため、心のケアも必要になる。

秋田市津波ハザードマップ

津波ハザードマップ



<https://www.city.akita.akita.jp/city/gn/ds/htdocs/>

スクロール地図版ハザードマップ



<https://www.city.akita.lg.jp/bosai-kinkyu/1022356/index.html>

秋田市土砂災害ハザードマップ

秋田県土砂災害危険箇所マップ（WEB上で地図操作が可能）



<http://sabomap.pref.akita.lg.jp>

土砂災害ハザードマップ（PDF版）



<https://www.city.akita.lg.jp/bosai-kinkyu/bosai/1002188/1029299/index.html>

大地震（震度6強M7）発災時刻：①真夏の午後 ②真冬の深夜

1、地域災害特性の把握：

- ①②共通：動物病院の津波、液状化、土砂災害ハザードマップを確認し書き出す。
- ①②院内の医療機器の固定、薬品棚の飛び出し防止、非常用電源の確保状況は？

2、時季・時間帯別対応：※熱中症、低体温症も考慮すること。

- ①開腹手術中ですが、どのように対応しますか？優先順に。課題となることは？
- ②入院動物の状態をどのように確認し、停電&断水後、どうやって管理しますか？

3、院内被災環境の把握、医療器具等財産の保護、避難先での継続医療：

- ①落下・移動・損壊する危険のある機器は？顧客・薬品管理体制は？
- ②風上の建物から火災が発生し、延焼の危険がある場合、入院動物をどのようにどこへ避難させますか？避難先での継続医療処置はどのように行いますか？

4、今から備えておくべき体制や物品、必要な準備は？

例：動物病院同士の相互応援・協力要請に必要な情報整理リスト作成等

秋田県VMATを立ち上げよう！

全国から防災計画や動物救護マニュアルなどを収集して分析を行い、災害に備えて獣医師会として具体的にどのように動くべきかを検討し以下の5つを活動の中心とすることにしました。

- 1、発災より**48時間**が最重要**phase**と考え、新たに専門的な教育を受けた動物救護班である**VMAT**（災害派遣獣医療チーム）を設置する。
- 2、平常時にさまざまな災害を想定したシミュレーションを行い、それをもとに日常の訓練を行う。
- 3、平常時より**VMAT**、協力動物病院、協力獣医師、協力動物看護師などを登録し、お互いの認知および教育・訓練を行うためのシステムを作る。
- 4、行政による被災動物救援対策本部が設置され機能し始めれば、これと協力して働く。
県や市町村との事前協定を結んでおく。
（phase：フェイズ、時相。災害からの時間経過）

VMAT（Veterinary Medical Assistance Team：災害派遣獣医療チーム）とは獣医師、動物看護師、動物トレーナー、トリマーなど1チーム4～5名で構成され、大規模災害や多くの傷病動物が発生した事故などの現場に、急性期（おおむね48時間以内）に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた獣医療チームのことです。

VMATの任務と役割

VMATの任務は人命救助を妨げない範囲で、発災初期の動物の保護・救出にあたりるとともに、被災状況の情報収集を行います。また、避難所やシェルターの設置に協力し、動物の健康管理及び人間と動物の関係を円滑にすることです。

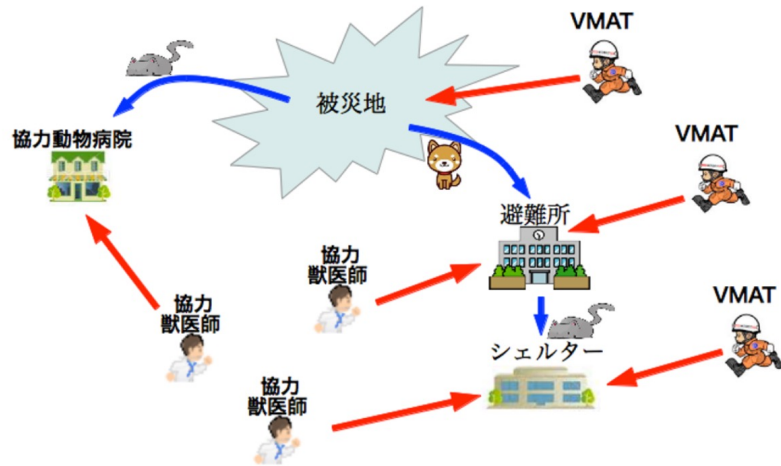


表1 VMAT認定講習会講義内容

第1回 VMAT認定講習会

- | | |
|-----------------------|-------------|
| 1. 災害概論 | 2. VMATの運用 |
| 3. 災害シミュレーション | 4. 平常時の準備対応 |
| 5. 実習：救命講習（協力：福岡市消防局） | |

第2回 VMAT認定講習会

- | | |
|---------------------------|---------------|
| 1. 被災地での活動 | 2. 動物の救急処置 |
| 3. 後方支援 | 4. シェルター作業と管理 |
| 5. 実習「防災の現状と課題」（協力：防災士協会） | |

VMATはあくまでも災害発生時において行政が十分に機能することができない発災から48時間以内をカバーするための動物救護チームであり、人的支援が落ち着いた48時間以降は従来通り動物救護の主体は行政に移管され、VMATはその指揮下に入ることとなります。

受講後に試験を行い適切と認められたものが、3年間VMAT隊員として登録されます。隊員には制服と制帽、安全靴が貸与され、発災時の動物救護活動の他、県下で開催される防災訓練などへ参加、各地域でのペットとの同行避難の啓発、地区獣医師会での災害対策の充実などを行っています。

VMATについてのお問い合わせ先：<https://www.animaliesa.com/inquiry>



VMATに登録している獣医師達の悩みと葛藤

現在、大規模災害に発生時における課題などについて書かれた書籍「災害動物医療」が2018年に発行されたが、掲載されている記事のどれもが総論で動物救護の具体的な方法についての記載はほとんどない。災害動物医療研究会も中心となっていた羽山先生が抜けてから、有名無実のものになってしまっている。

災害救助法施行令第10条に獣医師の記載についての法的整備については日本獣医師会が10年ほど前から同様の活動をしている（本当にしているかどうか不明）が、現在は「2. 法制化するための手順 1. 課題の認識と提言」で、10年ほど止まっている。

日本獣医師会幹部に対して、災害獣医療の実現に意識の高い獣医師達からは「自分たちが変える権限がないため非常に残念です」との意見が強い。

これだけ災害が多発する現状においても、災害時に獣医療行為をすることは縄張り意識や既得権の侵害という古い考え方が獣医療にはあり、VMATが出動することで、その地域の獣医療が侵害されるという危惧から、他県からの支援を頑なにこばみ、自分たちだけで何とかしようという意識がとても強い組織なのであることが、能登半島地震でも顕著に見られた。もし現行のまま他県からVMATを派遣すると、獣医師会内部からバッシングが起こることが予想され、万が一事故が起こった時には、VMATの存在自体が否定される恐れがあるため、全国でVMATに登録している獣医師達は慎重に行動している現状にあり、一方的な負の思い込みに強い違和感を感じる。

獣医師会で「VMATの活動は地域獣医療が復活するまでのつなぎである」という認識だが、最近はワンヘルスで忙しい獣医師会は、災害は二の次になってしまっている。。

災害獣医療について気づいたこと・考えておくこと・調べること

過去のVMATによる災害獣医療に関心が高いの獣医師へのアンケート調査結果例：

- ・ 地域獣医療を守るために飼主に掛かり付けでの診療や薬やフードの購入を優先させる。
- ・ VMATは後方支援隊であることを非会員・会員の獣医師達に周知する。
- ・ 災害救助法施行令第10条へ「獣医師」の記載を専門弁護士依頼して早く実現する。
- ・ 被災獣医師への人的・物的支援の体制と仕組みを作り、全国レベルで相互扶助する。
- ・ 明日は我が身であることの強い認識と結果的に動物たちを守ることを優先すべき。
- ・ 被災後も獣医療を継続するための役割と責任をいかに保持するか？準備が必要。
- ・ 海外では助かる命も日本では大人の事情で助からない現状はかっこ悪いのでは？
- ・ 過去の被災地における獣医療活動について被災獣医師の報告書などから学びたい。
- ・ 各県の動物看護師養成学校に獣医療施設として登録してもらえば応急救護所が増える。
- ・ 岩手大学の動物救護車を全国を9ブロックに分けて配置できないだろうか？

●どうすれば被災後（病院施設損壊・停電・断水）の獣医療を保持できると思いますか？

秋田県VMATを立ち上げるための課題と改善策

- 1、秋田県VMATを立ち上げるための課題としては何があると思いますか？（複数可）
- 2、上記の改善策は？
- 3、今後、秋田県獣医師会が本気で取り組むべき災害対策は具体的に何ですか？

本日の振り返りや現状の改善点、課題について等

【ペットの命を守る本: もしもに備える救急ガイド】

<https://www.amazon.co.jp/dp/4895315894/>



●「ペットの命を守る本: もしもに備える救急ガイド」
 テーマは、「Life is One : 命は一つ」
 目の前のペットの「助かる命を助けるために」知識とスキルを
 身につけていただけることを目的に執筆させていただきました。
 もちろん、ご自身のペットが救命処置が必要な状態にならないための
 突発的な事故などが発生した際にどうしたらいいのか？
 ペットセーバー講習会でお伝えしている内容をご紹介します。
 ご家庭の動物救命の手引きとして、おすすめの一冊です。

【エキゾチックペットの命を守る本: もしもに備える救急ガイド】

いざというとき、かけがえのない命を助け、身体的・精神的な健全さを守るために飼い主ができること、そのための知識が詰まった一冊です。



著者
サニー カミヤ
Sunny Kamiya

一般社団法人日本国際動物救命救急協会代表理事／
一般社団法人日本防災教育訓練センター代表理事／
1982年福岡県生まれ。福岡市消防団のレスキュー隊小隊長を務めた後、国際緊急救助隊員、ニューヨーク州救急隊員として活動。人命救助数は1,500名以上を数える。アメリカに22年在住し、現在はアメリカ国籍。2013年より消防救助隊を自らに担い、レスキュー救急管理、防災、防犯、各種テロ対策コンサルタントなどの活動を行う。さらには「助かる命を助けるために」をテーマに、ペットの救命救急法（ペットセーバープログラム）の講習を日本全国で展開。ペットの飼い主や消防士などに、日常業務や自然災害時における家庭的な動物救急と自衛に向けた取り組み、および飼い主とペットの「生命・身体・財産・生活・自由」を守るための防災教育の普及活動を行っている。



監修者
小沼 守
Mamoru Onuma
獣医師、博士（獣医学）

一般社団法人日本国際動物救命救急協会動物救急アドバイザー／大相模動物クリニック院長／ペット健康な暮らしを主眼とする、千葉科学大学動物生命健康研究センターシニア・フェロー
1967年埼玉生まれ。日本大学農獣医学部獣医学科を卒業し、1995年大相模動物クリニック（現・大相模動物クリニック）開設。2011年日本大学大学院獣医学専攻より2017から2024年まで千葉科学大学教授を務める。2021年エキゾチックペットセーバープログラムを編纂。ペットの災害対策や危機管理、災害救助などの社会貢献活動、サプリメントなど機能性食品開発に向けた活動を行っている。東京農工大学非常勤講師、日本獣医動物生命学会顧問のほか、日本獣医エキゾチック動物学会、日本ペット栄養学会などで役員や委員を務める。

エキゾチックペットの 命を守る本

もしもに備える救急ガイド

著 サニー カミヤ 監修 小沼 守



BE A HERO
SAVE LIVES

緑書房

エキゾチックペットの命を守る本

著者
サニー カミヤ
監修
小沼 守

緑書房



LIFE IS ONE

EXOTIC PET FIRST AID
FOR EVERYONE, EVERYWHERE



<https://qr.paps.jp/wgNID>

本書ではウサギ、モルモット、デグー、チンチラ、フェレット、シマリス、ハリネズミ、ハムスター、フクロモモンガ、小鳥、カメ、トカゲなどを対象として取り上げ、大切なペットを助けるための実践的な知識やテクニックについて、犬や猫とは異なるエキゾチックペット特有の事情もふまえながら、詳細に解説しています。

普段の生活で起こりうる病気やケガへの応急処置や予防法、呼吸困難など生命の危機に瀕するペットへの救命処置(心肺蘇生法)を、動画も用いながら詳しく紹介するほか、災害時における安全確保や同行避難方法、避難所などでの同伴避難を円滑に実行するための事前準備などについても具体的に取り上げます。

©2024 一般社団法人 日本国際動物救命救急協会/エキゾチックペットセーバープログラム:

<https://exoticpetsaver.com>



【ペットの命と生きる本:ペットロスを乗り越えるためのトライアングルケア】

ペットの命と生きる本

ペットロスを乗り越えるためのトライアングルケア

ターミナルケア グリーフケア スピリチュアルケア

著 サニー カミヤ



サニーさんの本はいつも具体的でむだがないです。
いつか来る別れの日に備え、
持っているだけで頼もしいお守りのような本です。

吉本ばなな

緑書房

ペットへの無条件の愛を知り、
永遠の絆を深めるために、
私たちが心がけたいこと、実践すべきこととは？

ペットとの別れを受け入れ、
ペットの命と生きるために、
トライアングルケアの扉を開いてみよう。

本書では、ペットとのつらい別れを受け入れ、そして新しい命を迎えるための取り組みとして著者が提唱するトライアングルケア「終末期ケア・祝別ケア・命のケア」という3段階のアプローチを紹介。ペットの終末期から死後までのケアを適切に行い、ペットとの永遠の絆を深めるために必要な知識や考え方、実践法を詳しく解説。

避けることができないプロセスを先読みしておくことで、段階的な心構えと準備することの大切さ、祝別後もペットが去ったことによる感情の変化等を自分のペースで取り戻し、日常を継続的に迎えることにつなぐことができるかもしれません。



<https://x.gd/Amf3Q>

ご清聴ありがとうございました。

この講演資料のダウンロードはこちら→ <https://petsaver.jp/PDF/AKITA20240901.pdf>

●防犯・危機管理

G4S 警備会社 セキュリティーコンサルタント

テイケイ株式会社 警備員指導講師

東京ビルディング協会 テロ対策特別講師

など



●防災・災害対応

(特非) ジャパンハート国際緊急救援事業顧問

(一財) 消防科学防災センター指導員

(株) FCR 鉄道人的災害特別指導官

(株) レスキュープラス 上級災害特別指導官

など

一般社団法人 日本防災教育訓練センター
サニー カミヤ



<https://irescue.jp>

03-6432-1171

info@irescue.jp

